

目次

社会福祉法人 大阪狭山博悠会

平成 29 年度事業報告総括	1
特別養護老人ホーム 陽だまりの丘	2
1. 基本方針	2
2. 目標	2
3. サービス計画	2
(1) 活動計画の評価	2
(2) 入居者個々の介護支援計画	2
(3) 生活支援（ユニット処遇）	3
(4) 食事・栄養	1 1
(5) 健康管理・医療体制	1 6
(6) 機能訓練	1 8
(7) 事故防止	1 8
(8) 年間行事	2 1
4. 衛生管理	2 3
5. リスクマネジメント	2 3
6. 苦情解決	2 3
7. 防災安全対策	2 4
8. 設備管理計画	2 5
9. 地域活動	2 6
10. ご家族との交流	2 6
11. 個人情報の保護	2 7
12. 会議・委員会・ミーティング	2 7
13. 研修	2 8
14. 事務・管理	3 1
短期入所生活介護 事業報告	4 0
通所介護 事業報告	3 8
結いまーる 事業報告	4 1
社会貢献事業 事業報告	4 3

平成29年度 事業報告総括

介護保険制度と介護報酬改正が行われ非常に厳しい状況の中、各事業に添った事業を推進すると共に、利用者のサービス向上に努め、それぞれ一定の目標に達することができた。適正な介護業務と適正な収支状況への取り組みを行い、各事業の全職員による入居者へのより良い介護、業務の効率化、可能な加算の取得、入居率利用率の向上に懸命に取り組み、収支の安定やサービスの向上を図った。しかし建物や施設設備の年数が経過しており、設備や建物点検により、利用者や職員が安全な環境の中で安心して暮らせるよう、今後は修理や更新の計画を遂行していかなければならない。

人材確保については、介護・看護共に非常に厳しい状況が続いているため、学校訪問や職員紹介などあらゆる方法により、維持・確保を展開しているところである。職員の資質向上の結果による施設評価が、一番の確保に繋がることを念頭に置き実践していくことが重要である。

介護老人福祉施設 陽だまりの丘

1. 基本方針

今年度は、介護老人福祉施設として、要介護者の心身の状況に応じた施設サービスを提供することに努めた。特に近年は要介護の高い高齢者の方々のニーズが多様化し、サービスの質を高めるために職員の知識と技術の向上を図った。また、福祉サービスを提供するにあたっては、「利用者には選ばれるサービスとは何か」「望まれるサービスの質とは何か」「利用者本位のサービスとは何か」を常に基本に置き、利用者のサービス向上に向けた取り組みを行う。

2. 目標

(1) 今年度の重点目標

- 1) 入居者・利用者に対し、尊敬の気持ちで接することで出来る限り要望を引き出し、明るく気持ちよい生活を送れることに繋げることができた。体調を崩した時や、次々にナースコールがある時などは、心に余裕が持てない時もあった。
- 2) 定期的に人事異動を実施し、マンネリ化を防ぐことにより職員の意欲の向上に繋がった。
- 3) 業務を見直し、責任をもって取り組めた。しかし介護の根拠も考えず、業務を実施し専門職としての意識が薄い時もあった。

(2) 職員目標

- 1) 笑顔を忘れず積極的に挨拶を心がけた。職員人数が少ない時間帯や、業務が重なると余裕がなくなり口調がきつくなってしまう時があった。
- 2) 思いやりの心を大切にしたい。報告・連絡・相談については、常に全員が意識し実行したが、言葉足らずの時もあり、より一層周知、徹底を図る必要がある。

3. サービス計画

(1) 活動計画

- 1) 「普通の生活」が実現できるようできる限り、気持ちに寄り添い支援した。一人ひとりの個性に関しては、把握し足りず集団生活になっている部分もあった。
- 2) 介護職員が入居者の状態の変化にいち早く気付くことにより、他部門やご家族と連携して早期に対応することができた。
- 3) 転倒防止の為、居室の動線の確認や手すりを設置し、センサーコールを使用するなどの対応により、入居者の方々が安全または安心して生活できるよう努めた。後期では、ナースコール等の介護機器の破損や不具合が続いたこともあり、日常の介護業務の中でも使用機器の点検を確認し、事故を未然に防げる環境作りを維持していきたい。
- 4) 入居されている方が穏やかな気持ちで安心して暮らしていただけるよう職員全員で取り組んだ。今後も助け合いの精神をもち、職員がゆとりをもって接するように心がけ、職員、入居者共に安心できる環境づくりに努めたい。

(2) 入居者個々の介護支援計画

1) 目標

- ①できる限り個人のご意向、又はご家族の意向を尊重し、楽しく快適に過ごしていただけるようプランに反映した。
- ②入居者が一日でも長く施設で安楽に過ごしていただけるよう、看護職員、介護職員と連携を図った。又、状態についてご家族に都度報告し情報を共有した。
- ③入院された時は各部署と連携し、適時、病院に伺い、担当者に状態を聞き、様子を把握した。

2) ケアプランの作成

①ケアカンファレンス

- ・ケアプラン更新、変更、又は問題が生じた時は速やかに各担当者の時間を調整し、ケアカンファレンスを開催した。又、病院より退院される時も事前に入院先に伺ってカンファレンスを行い、退院後の暫定ケアプランを作成した。
- ・ケアカンファレンスにはご家族の参加を依頼するも、参加された方は極一部であった。面会時にご要望等をお聞きしプランに反映する事が多かった。
- ・出来る限りご本人の参加をお願いした。意思疎通が困難な方は職員から情報を得てプランに反映した。

②ケアプランの作成

- ・ケアカンファレンスをもとに速やかにケアプランを作成した。
- ・作成したケアプランはご家族、ご自身に説明し、承諾を得た。職員にも回覧しケアプランの内容を周知し、全員がケアの統一を図った。

③モニタリング

- ・ケアプランに沿ったケアが出来ているか、毎月、担当職員と共にケアプランのモニタリングを行った。

3) ご家族との連携

- ①入居者の状態を把握し、リスクも含めご家族と情報を共有した。
- ②会話しやすい環境を整え、ご意見を引き出し信頼関係の構築に努めた。
- ③各担当者と連携し、異常の早期発見に努め、問題発生時は適時ご家族へ報告した。

4) 入居について

①入居申し込み

- ・施設入居の問い合わせがあった時は重要事項を説明し、施設案内を行った。
- ・入居申し込みがあった場合は速やかにパソコン内に情報を入力できた。
- ・入居候補上位のご本人、ご家族との面談を看護主任と共に行った。
- ・入居待機者に適時連絡し、現在の状況を確認した。

②入居選考委員会

- ・入居待機者の情報を把握し、毎月の入居選考委員会で周知した。
- ・入居選考指針をもとに公平に次期入所者を選考できた。

(3) 生活支援 (ユニット処遇)

桔梗ユニット

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者1人ひとりの行動を把握し、安全面に配慮した環境を作り安全に過ごして頂く事が出来た。 ・ユニットノート活用にて職員間の情報交換を密に行いケアの統一を図った。 ・入居者の些細な表情の変化や行動を記録に残し、本人の立場に立ち、その想いに寄り添った支援ができた。
食事	<ul style="list-style-type: none"> ・食事席に配慮する事で馴染みの利用者と楽しい雰囲気ですることができた。 ・入居者の状況に応じて食事時間をずらし、無理なく食事をして頂いた。また、摂食介助も個々のペースを守り介助できた。 ・個々の入居者のADLに合わせて食器を選び使用した。
排泄	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の排泄パターンを把握した排泄介助にて、汚染を最小限に抑える事が出来、快適に過ごして頂けた。 ・排泄介助やトイレ介助時は、ウォシュレットや清拭タオルを使用し、清潔保持をした。 ・排泄介助時の声掛けは、周りに聞こえないように小さな声で声掛けをするなどして、プライドに配慮し安心して介助を受けていただいた。
入浴	<ul style="list-style-type: none"> ・羞恥心の強い入居者には、プライバシーを守り安心して入浴していただけるよう配慮した。又、安全に入浴して頂ける様、体調やADLに応じて入浴方法を変更した。 ・室温やお湯の温度を調整し、ゆったりと入浴して頂けた。 ・皮膚が乾燥し、掻き傷の多い入居者に対し早期に発見し、保湿クリームや無添加のソープで対応した。
環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・羞恥心の強い入居者には、プライバシーを守り安心して入浴していただけるよう配慮した。又、安全に入浴して頂ける様、体調やADLに応じて入浴方法を変更した。 ・室温やお湯の温度を調整し、ゆったりと入浴して頂けた。 ・皮膚が乾燥し、掻き傷の多い入居者に対し早期に発見し、保湿クリームや無添加のソープで対応した。
衛生 健康管理	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に爪切りや顔そりを実施できた。耳掃除は嫌がれる入居者も多く必要時はご家族に受診をして頂く。できる入居者に対しては実施できた。 ・排泄後や食事前に手洗い、消毒を徹底し感染予防ができた。 ・職員自身の体調管理も保ち、利用者に迷惑をかけることなく支援ができた。
レクリエーション	<ul style="list-style-type: none"> ・折り紙や塗り絵を実施した。手伝いを好まれる方にはタオル畳みやおしぼり巻きなどをして頂き役割を担って頂いた。 ・外食や散歩などを実施し外の空気に触れ気分転換をして頂けた。
機能訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で、ご自身で出来る運動をして頂き、ADLの低下を予防した。また、拘縮がある入居者に対してはクッションを使用し拘縮の緩和に努めた。 ・手引き歩行でのトイレ誘導、椅子への座りかえを行い、下肢筋力の低下を予防した。
事故対策	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のユニット会議にて、事故報告書やヒヤリハットに関して再度検討し、再発予防の対策については話し合い、職員の意識の統一を図り、事故防止に努めた。 ・入居者の意向を尊重し、自由に移動して頂いた。その際は他部署連携し、できる限り行動を見守った。又、利用者間の関係性が悪化しないよう、職員が間に入り、

	トラブルを回避した。
--	------------

向日葵ユニット

目標	<ul style="list-style-type: none"> 入居者の日々の様子を観察し、会議で個々サービスについて話し合いや見直しが出来た。 ケアを統一するために会議などで対応を検討し実践したが、報告、連絡の不備があり、職員によって少し対応が違うことが見られた。周知徹底を図る。
食事	<ul style="list-style-type: none"> 食欲向上の為、ご家族にふりかけや嗜好品を依頼し提供した。 食事席に配慮し、馴染みの方と楽しく食事が出来る環境を作った。 ご自身で食べられる方と介助が必要な方とのテーブルが別になってしまい、ご自身で食べられる方との会話の機会が少なかった。出来るだけ声かけを行う。 ご自身で食事ができるようにスプーンや深めのお皿に移し替えるなどその都度 ADL を見直し、ご本人に合う物を使用して頂く事が出来た。 お菓子作りやスイカ割りなど行えたが、食事作りは行う事はできなかった。今後は利用者の希望を聞きながら対応したい。
排泄	<ul style="list-style-type: none"> 排泄が不快感や入眠の妨げにならない様に排泄時間や方法を、その都度見直し、気持ちよく過ごして頂ける様配慮した。 下剤服用時や訴えのある方に関してはトイレ誘導を行ったが、全介助の方に関してはそのままベッド上で介助を行った。 ADL の低下があり、立位、座位保持が困難な方は安全面を優先しベッド上で行った ご家族に協力を依頼し、芳香剤や消臭剤を使用し、臭いの除去に努めた。又、小まめに汚物の処理や清掃に努めた。
入浴	<ul style="list-style-type: none"> 安心して入浴して頂けるように、その都度、状態に合わせて入浴方法を変更し安全に入浴して頂けた。 入浴時や介助時に皮膚の観察を行い、異常の早期発見に努めた。内出血が出来やすい方には、表の作成を行い他部署にも周知した。 入浴時、湯船内でマッサージや軽い曲げ伸ばしをして頂いた。
環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ご家族から四季折々の植物の持参があり、助けて頂いた。今後は季節感を感じられるような作品作りにも取り組む。 食後は、掃き掃除やテーブルを拭き、清潔保持に努めることが出来た。 居室内の家具の配置や衣替えなど、入居者の状態、意向を聞きながら都度整理整頓を行った。 毎月、初旬に車椅子の点検・清掃を行った。 毎月、初旬、中旬にナースコールの点検を行った。
衛生 健康管理	<ul style="list-style-type: none"> 爪切りは小まめに行えたが耳そうじは拒否される方が多く、あまり行う事が出来なかった。除去しやすい入浴後等に実施する。 排泄後は手洗いができたが、食前はバタバタする事が多く忘れがちであった。 シーツやラバーのしわを伸ばし、ご自身で動けない方には夜間の体位変換を実施し褥瘡予防に努めた。 表情や会話から些細な変化に気付き、医療と連携した。

レクリエーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体操やお菓子作りなどユニット内でレクリエーションを行えた。 ・ 誕生日の外出や小道の散歩など年間 2 回以上の外出を行えるようにユニット内で企画し実施できた。 ・ 出来る方にはタオル巻きや洗濯物をたたんで頂くなどを行ったが、やりがいを持てるようなことまでは行えていない。
機能訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日課になるように決まった時間にリハビリ体操を行った。 ・ 入居者の ADL に変化やご家族からの希望があればその都度、機能訓練指導員に報告し、リハビリに活かしてもらった。
事故対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 居室内の動線や配置などは、その都度、検討し変更した。 ・ 気づきはしていてもヒヤリハット報告を上げる件数が減少し、事故防止に繋がるということへの周知が不十分だった。 ・ 日々の状態観察を行い、異常が見られた時はすぐに医務に報告し、指示を仰ぐことができていた。 ・ 事故発生時はその都度会議などで話し合い対応した。 ・ 大まかなケアの内容は統一できておりケア中の事故はあまりなかったが、入居者がご自身で動かれるなどして起こってしまう事故が多く見られた。 ・ 事故が起こった時は、その都度報告しご家族との関係を良好に行えた。

水仙ユニット

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入居者の様子を記録に残し、入居者の生活リズムを職員が周知し入居者の状態の把握や意向を尊重するよう努めた。 ・ ご家族面会時はご本人の日々の様子を報告し、ゆっくり過ごして頂ける様配慮した。 ・ ユニットノートを活用し職員間の情報共有を行なった。職員間で業務態度、言葉遣いなどの気付きがあれば、周囲に配慮し、なるべくその場で注意喚起を行った。
食事	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入居者の意向を聞き、食意のタイミングをみて食事摂取をして頂いた。 ・ 入居者にとっての適切な食事量を各担当者と相談し提供した。又、温かい物を食して頂ける様、食卓に着いて頂いた後に配膳をした。 ・ 入居者の嚥下状態、食欲、嗜好に気付きがあれば、職員間で情報を共有し形態、代替え品を管理栄養士に相談した。
排泄	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の ADL の変化を考慮し排泄方法や時間の変更をした。又、排泄物の異常の早期発見にも努めた。 ・ いつもと違う排泄間隔の空きや排泄物が見られたら、看護職員や介護職員に、その日の内に報告を行なった。
入浴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入居者の状態を見て、ご本人のタイミングや意向を尊重しながら、入浴介助を行なった。 ・ 入浴時や介助時に皮膚状態の観察を行ない、気付きや変化があれば看護職員と連携した。 ・ 入浴時やユニット体操時に入居者の表情に留意し、ゆっくり拘縮部のマッサージを行った。
環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日、離床時は寝具を整え、環境整備を行う時間を作った。

	<ul style="list-style-type: none"> 月に1度、ナースコールの点検とベッドのブレーキの点検を行った。 月に1度の点検時、又は介助時に車椅子の不具合について確認し、異常があれば担当者に報告、修理を依頼した。
衛生 健康管理	<ul style="list-style-type: none"> 食事前に入居者、職員の手洗い、消毒を行った。 離床時は清潔な衣類を着用して頂き、洗面、整髪を行った。又、小まめに爪切りを実施し清潔を保持した。 日々様子を注視し、変化があれば職員に申し送り情報を共有した。
レクリエーション	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアレクリエーションやユニットレクリエーションに参加を促した。無理強いせず入居者の意向を尊重した。 入居者の誕生日は、ケーキを購入し、入居者全員に祝いの言葉を述べて頂き楽しんで頂いた。
機能訓練	<ul style="list-style-type: none"> 個々のADLを見極め、ご自身で動けるよう意欲が湧く声かけを行った。又、介助時は動作の説明をし、協力を得た。 入居者の身体の状態を機能訓練指導員に伝え機能の維持向上のリハビリについて相談した。
事故対策	<ul style="list-style-type: none"> ヒヤリとした事例があれば報告書を提出し、他ユニット職員にも周知を図った。

紅葉ユニット

目標	<ul style="list-style-type: none"> 普段のコミュニケーションを密にし、入居者に寄り添い、その人らしい生活を過ごせるよう支援した。 面会時は、入居者の日々様子を伝え、ゆっくり過ごして頂けるよう配慮した。又、要望や思いについて傾聴し、介助に繋げた。 ユニットノートを活用し、コミュニケーション力アップに繋げた。又、研修や勉強会への参加にてスキルアップを図った。
食事	<ul style="list-style-type: none"> 明るい話題作りを心がけ、安全に楽しく食事が出来るよう努めた。 当日のご本人の体調や気分に合わせて、延食や無理のない食事介助を行った。 ADLに合わせ、各担当者と相談しながら食事形態を見直し、安全に美味しく食事をして頂ける様配慮した。
排泄	<ul style="list-style-type: none"> 日々様子を観察し、排泄表を元に排泄用具や排泄介助の時間を見直し、早期に対応した。 排泄時には、プライバシーを守り、個々のADLに合った方法で介助を行った。 換気や消臭剤を使用し、臭いの除去に努めた。又、汚物の早期の撤収、清掃にて、快適に過ごして頂けるように取り組んだ。
入浴	<ul style="list-style-type: none"> 安心、安全に入浴して頂ける様、入浴担当者と情報を共有した。又、楽しい話題を提供しゆっくり入浴して頂ける様、努めた 入浴時には、全身観察を行い、異常があれば各担当者に申し送り情報を共有した。 入浴後は、廻診にて処方された軟膏やご家族に依頼した保湿クリームを塗布した。ユニットでの購入は不要であった。
環境整備	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝の環境整備は欠かさず実施し、清潔で過ごしやすい環境作りに努めた。 個々のADLの変化に合わせて、家具や手すりを設置し、安全にくつろげる空間作り

	<p>を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デイルームにもテレビを設置し、いつでもくつろいでもらえるように努めた。 ・食後以外でも、気付いた時に掃除を行い、清潔保持に努めた。
衛生 健康管理	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の些細な変化にも注意し、異常があれば、看護職員に報告し、指示をもらう事ができた。 ・コミュニケーションを図りながら、爪切りや耳掃除を行った。 ・こまめな声かけにて 1000ml の水分摂取の目標は達成できた。 ・汚染があれば速やかに更衣をして頂いた。
レクリエーション	<ul style="list-style-type: none"> ・無理強いすることなく行事へ参加をして頂く事が出来、交流の場となった。 ・個々の好みに合わせて、散歩やカラオケを実施した。 ・個別担当を中心に、お誕生日会を企画し、楽しく過ごして頂いた。
機能訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に能力に応じた手伝いや生活リハビリにて機能の維持向上を図った。 ・残存機能維持向上のリハビリについて担当者と相談し、実施した。
事故対策	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の入居者の様子や行動を観察し、些細な変化について情報を共有し異常の早期発見を心がけた。 ・些細なこともヒヤリハット報告書を作成し、周知する事で事故の予防に努めた。 ・ユニットミーティングで、要因や改善策について再検討し、防止策を実施した。 ・事故時は速やかにご家族に報告し、痛い思いをさせたことをお詫びし、再発防止に努めた。

桜ユニット

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の希望を傾聴し、個々に合わせた過ごし方を提供し生活リズムを整えた。 ・ユニット会議はもちろん、日常的にメモを残したり、所見に記載することで情報を共有した。また、職員間のコミュニケーションを密にした。 ・日頃から気配り目配りを心がけ、入居者の変化を見逃さないよう努め、話しかけやすい雰囲気をつくった。 ・面会時には笑顔でご家族をお迎えし、積極的に声をかけ、入居者の日頃の様子を話し信頼して頂けるよう努めた。
食事	<ul style="list-style-type: none"> ・会議等で話し合い、テーブル・椅子・食器を変更した。 ・日々の食事の様子を観察し、管理栄養士、看護師と相談し会議で話し合い提供した。 ・ご飯・汁物は着席してから配膳し温かい物ものを提供した。覚めてしまったものは再度温め直すなど適宜配慮できた。 ・個々の性格や交友関係、ADL を考慮し状況に合わせて席替えをして、落ち着いて楽しく食事ができる席を提供した。
排泄	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄介助時は居室のドアを閉め、排泄後は臭いが残らないよう換気するなど自尊心に配慮した介助ができた。 ・定期的に会議で個々の ADL の変化を考慮した排泄介助方法、用具の変更を話し合い、実施できた。 ・排泄サイクルの把握に努め、個々に合った時間帯に排泄介助ができた。 ・ウォシュレットを活用し清潔に努めた。排泄介助時は清拭タオルを使用した。

入浴	<ul style="list-style-type: none"> ・その日の体調や状態に合わせて、本人のタイミングや意向を聞きながら、誘導、介助を行った。入浴時のコミュニケーションを重視し積極的に会話した。 ・入浴時に入居者の表情を見ながら拘縮部のマッサージを行った。なかなか時間をとることが難しく、ゆっくり時間をかけて行うことができなかった。 ・入浴時に全身の皮膚状態を観察し、気づきや変化があれば看護職員と介護職員に申し送った。 ・必要時には保湿クリームを塗布し皮膚状態を良好に保てるよう努めた。
環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・本人やご家族の意向を取り入れた居室作りを心がけた。離床時、訪室時には寝具を整え、環境整備を行った。 ・月に1度ナースコールの点検とベッドブレーキの点検を行い、不具合があれば早急に修理を依頼した。月に1度及び汚れがひどい時に車椅子の清掃、点検を行った。 ・個々のADLの変化に合わせて手すりの設置、家具やベッドの配置換えを行い、安全に過ごせる環境を提供した。
衛生 健康管理	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の食事準備、介助前、排泄介助後の手洗い、消毒は徹底し感染予防ができた。入居者の手洗い、消毒は実施していたが、必ずしも絶対的にできていない場合もあった。今後は工夫し徹底していきたい。 汚染時は更衣し、気温に合わせた衣服を提供し、清潔に過ごして頂いた。 ・入浴時、排泄時、食事時、レク時等日常的に爪や耳垢を観察し、爪切り、耳掃除を行った。 起床時、離床時には整髪を心がけ、清潔保持に努めた。
レクリエーション	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者同士の会話が円滑になるよう職員が間に入り会話の手助けをし、状況を盛り上げるように努めた。 ・ボランティアによるレクリエーションの場合は全員に声かけをし参加を呼びかけた。ただし、各自の意向を大切に、希望者は参加して頂き無理強いはしなかった。 ・手芸、絵画、ボーリング、体操など入居者がそれぞれ得意とする事柄をピックアップし提供した。 ・桜の時期など気候のよい頃にはひだまり小道を散歩する等積極的に外に出るようにし、気分転換を図った。 ・誕生会は実施したが、おやつ作りは殆どできなかった。外食でお祝いする等いつもと違う環境を楽しんでいただいた。
機能訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・立位、歩行、車椅子自操、移乗等なるべくご自身で出来るよう声かけや見守りを行った。 ・身体状況に変化があった場合は、その都度機能訓練指導員と相談し、効果的なリハビリを検討した。 ・体操やボーリング、風船バレーなど、楽しみながら体を動かせるリハレクメニューを実施した。
事故対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリ、事故発生後は報告書を提出するとともに口頭でもユニット内で申し送り、すぐに周知改善できるようにした。 ・ヒヤリとした気づきは積極的に報告書を提出した。 ・センサーマット、衝撃緩和マットの必要性、ベッドや椅子、車椅子の設定など定期的

	に話し合い、見直しを図り、安全に生活できる環境を整えた。
--	------------------------------

銀杏ユニット

目標	<ul style="list-style-type: none"> 起床時間や就寝時間、日中の過ごし方等個人の希望を傾聴し、個々に合わせた過ごし方や生活リズムを作ることができた。 ご家族の面会時には積極的に関わりを持ち、入居者・ご家族が希望や要望を伝えやすい環境を作ったつもりであったが、生活支援専門員や事務職員にのみ要望を伝えるご家族もおられた。今後はもっと気軽に相談して頂けるように、ユニット間で話し合い、雰囲気作りに努める。 傾聴する時間を大切にし、入居者の想いを汲み取ることで信頼関係を築くことができた。
食事	<ul style="list-style-type: none"> 日々の食事の様子やペースをしっかりと観察し、問題があれば形態や提供方法を見直し安全に美味しく食して貰えるよう心掛けた。 馴染みの方との会話を楽しみながら食事が出るように、食事席に配慮し団欒の場を設けることができた。 食欲がない時は無理に勧めず、出来るだけ希望に添う時間に提供した。食事の量に少な目を希望される方があり、栄養士に相談し対応した。
排泄	<ul style="list-style-type: none"> 排泄の訴えがあれば、直ぐに対応したが、重なった際は少し待つて頂くこともあった。今後はそのような時間を減らせるよう、排出サイクルの把握に努める。 会議にて情報を共有し、入居者にあった排泄用具、方法を見直す事ができた。
入浴	<ul style="list-style-type: none"> 入居者の体調や状態に合わせて入浴方法を変更することで、安心安全に入浴して頂く事ができた。 長湯を希望される方には入浴時間を長めに、又、好みのシャンプーを使用するなどし、入居者の意向に合わせた入浴介助ができた。 入浴の時間は1対1でゆっくりと会話が出る貴重な時間と捉え、プライバシーに配慮し興味のある話題作りをすることで、入浴時間を楽しくゆったりとした時間にできた。
環境整備	<ul style="list-style-type: none"> 季節に合った小物を置く事や、壁画を飾ることで季節を感じて頂く事ができた。ただ、フロア内に仕切りがなく殺風景である。家具などの配置を工夫して、個々がくつろげる空間を作りたい。 居室内で車椅子の方が動きやすいように広めに移動スペースを確保した。又使用頻度が高いものは取り出しやすい位置に置き、安全に過ごせるよう配慮した。 テレビを好まれる方が多く、あまり音楽を流す機会がなかった。次年度は音楽に拘らず、話題作りに努めフロアの雰囲気を盛り上げる努力を行う。 ご家族より居室内の埃が気になるとの指摘があった。毎日の清掃を徹底し、すぐに掃除ができないようであればユニット間でその箇所を申し送り、汚れたままにならないようにする。
衛生 健康管理	<ul style="list-style-type: none"> 入居者の些細な変化にも注意し、ユニット間で申し送ることを周知徹底した。異常があった場合はすぐに看護職員に報告し、指示を仰いだ。

	<ul style="list-style-type: none"> ・食事前や排泄介助後は手洗いや消毒を徹底し、感染を予防することができた。 ・入浴時等を利用し、爪が伸びていないか、耳垢が溜まっていないかを定期的にチェックし、爪切り、耳掃除をすることで清潔に過ごすことができた。 ・車椅子からソファへの座り替えや、長時間同じ姿勢でおられる方にはプッシュアップを促し、褥瘡予防に努めた。
レクリエーション	<ul style="list-style-type: none"> ・絵画やカラオケ等個々の趣味の時間を楽しんで頂くよう配慮できた。次年度も個々のレクリエーションを企画し、生活意欲の向上につなげる。 ・入居者同士の談笑時は、必要時は職員が間に入り会話が盛り上がるように話題を提供させて頂いた。 ・ボランティアによるレクリエーションがあれば、毎回入居者全員に声を掛けた。不参加の申し出があれば無理には促さず、好みの場所で過ごさせて頂いた。
機能訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・時間が取れず、毎日のユニット体操は実施できておらず、訪室時などに足踏み等簡単にできる運動をして頂き、身体機能の低下を予防した。又、10時のラジオ体操を楽しみにされる方があった。 ・身体状況に変化があった際は機能訓練指導員に効果的なリハビリについて相談し個々のADLに合ったリハビリを実施することができた。
事故対策	<ul style="list-style-type: none"> ・転落の危険の高い方に対しセンサーコールや衝撃緩和マットを使用し、行動把握に努めた。 ・ご自身で薬を服用される方の飲みこぼしの事故や職員による誤薬が重なった。ADLの低下を見逃さないよう、又、服薬マニュアルを厳守するよう再度周知した。今後も事故報告書やヒヤリハットは速やかに提出し、要因対策について周知する。 ・訪室時は車椅子のブレーキの確認をし、ご本人にも説明し事故防止に努めた。

(4) 食事・栄養

1) 目標

- ①月一回の実演イベントやユニット別食事レクを実施し、調理する場面を間近で見て楽しんでもらい出来立ての状態を提供できた。
- ②寿司や変わり御飯の日は個人の対応に合わせた(禁止、量、形態)提供をした。食事の意見を頂ける方には献立へ反映しているが全員ではないので今後も把握する為、意見をうかがいに行くよう努めていく。
- ③栄養改善委員会で他職種と利用者の状態把握、意見表や残食表を基に委託業者と食事の提供方法の検討が出来た。

2) 計画

ご入居者は、なるべくフロアでユニットの皆さんと団欒して召し上がって頂くよう声掛けをし、誘導している。

また食事が負担にならないよう量や形態、食器の配慮を他職種、委託業者と検討し実施した。ご利用者の要望に合わせたおやつ等をご家族へ依頼し持ってきていただき生活の楽しみの一つとして頂いている。

① 栄養ケアマネジメント

- ・毎月、栄養スクリーニング、アセスメント、モニタリングを行い、栄養ケア計画書を立案

し、実行した。

- ・今年度のヒヤリハットは、41件。1か月分を報告し、改善策について検討できた。カンファレンスにより情報の共有、食事提供方法の検討を実施できた。また栄養ケア計画書に添ったモニタリングを担当職員と把握し、栄養ケア経過記録に入力した。また、今後もしもご入居者の食事時間にフロアへ上がり、担当職員への聞き取りなども合わせて状態の把握に努める。

② 食事方法

- ・食器は概ね陶器を使用した。ご本人の食事状況に合わせてワンプレートや割れない食器を使用するなど工夫した。またユニットではランチョンマットを敷き、茶碗、湯呑、お箸は家庭で使用していた物や個人に合う自助具等を使用した。食事時に使用するおしぼりを巻く作業等、手伝っていただいた。
- ・喫食時間はユニットへ行き、食事状況（食べにくさ、姿勢、嗜好）を把握し他職種と連携し残存機能維持に努めた。
- ・食事への楽しみのために月1回ずつ各ユニット・デイにて実演イベントや食事レクレーションを実施した。食中毒の危険性が極めて少ない冬季には実演の握り寿司イベントを実施した(11月、3月)。
- ・2か月に1回のペースで郷土料理を提供できた。料理名の由来や行事食に使用している季節の食材についての栄養情報を作成・配布し料理について興味をもっていただくよう実施できた。

③ 各種調査の実施

- ・検食…日々の食事についての安全性を把握するため実施できた。
- ・食事意見表（各ユニット、デイサービス、結いまる）、残食調査、嗜好調査を実施し、栄養改善委員会で参考資料に使用しそれを基に日々の献立に反映した。

④ 栄養改善委員会の開催

- ・毎月実施し各部門の職員、給食業務委託業者とともに開催した。今年度の事故報告の中で異物混入が14件と一番多く、委託業者側の異物混入への危機意識が必要だと考えられる。
- ・各種調査に基づき、献立や提供方法について報告・相談しご利用者の食事提供について検討できたが、うまく委託業者側との連携が取れておらず検討した提供方法となっていなかったことが多々あった。今後密に委託業者側と連携を取り再発防止に努めていく。
- ・給食業務委託業者の衛生課や保健所等の情報を基に委員会で食中毒への情報を発信した。
- ・行事食の案内、イベント食の計画・評価を行った。

⑤ 厨房における衛生管理の徹底

- ・大量調理マニュアル、給食業務委託業者の衛生マニュアルに従い衛生管理を実施した。
- ・害虫駆除は5月31日、11月8日、殺菌灯と換気扇のネットの交換は7月14日、1月22日に実施した。
- ・厨房内、厨房事務所、食品庫の整理・整頓の実施は給食業務委託業者に依頼しているが、今年度はグリストラップの異臭問題等もあり完全でないことが目立った為、引き続き来年度の課題とする。
- ・ノロウイルスの発生時期はアルコール消毒から次亜塩素酸ナトリウムで配膳車やワゴン

消毒した（11月1日から開始）。

⑥ 安全対策

- ・他職種の連携によりご利用者の口腔ケアを実施できた。
- ・職員は衛生管理、食材管理を徹底している。また、配膳前には必ず確認し提供している。
- ・食材の持参についてご利用者やご家族へ衛生面への理解を求めためエレベーターに食材持参についての案内を掲示している。

- ・厨房業務での事故・ヒヤリハットは41件（内異物混入は14件）。

異物混入は髪の毛が4件あった。また、作業中に誤って混入したビニール手袋やラップの破片、クッキングシート等注意をしていれば未然に防げるような異物混入も目立ったため、厨房業務に取り掛かる職員に再度注意喚起を行った。また、誤配膳や提供献立間違いを防ぐ為、前年度後半から昼食・夕食の調理作業前に朝礼・夕礼の時間を設けた。そのことが影響するのか前年度よりも数量間違い・配膳ミス等のヒヤリハットが20件ほど減少している。今後もヒヤリハット・事故は起こさないことが大前提であるので委託業者側と連携し未然に予防していく。

⑦ 非常食の対応

- ・飲料水、非常食を備蓄中、今年度災害は起こらなかった。

⑧ 行事食の充実

- ・毎月、朝ごはんに変わり粥の選択食の実施をしている。利用者様のリクエストによる食事レクも実施した。

- ・4月30日、と10月22日に家族会を実施できた。

- ・実演において目の前で調理した出来立ての食事にご利用者様も喜ばれている様子だった。月1回という限られた回数での実施だったこともあり、去年は様々な実演を見てもらおうと各階合同で実施していたが、実施場所と異なるユニットの利用者様にとっては移動や実演の雰囲気のまま食してもらう事が出来なかったため、今年度は各ユニットで実演した。また、随時各ユニットで食事レクリエーションも行った。

- ・9月と3月にはセレクト食を実施しご利用者様一人ひとりに2種類の中から好みの料理を選んで召し上がっていただいた。デイサービスでは当日に選択していただき大変好評のお声が上がった。

5月には去年に引き続き二回目のサンドウィッチ提供を試みた。ボリュームが少ないことが去年の課題だったが、サンドウィッチの具材の変更やサイドメニューにボリュームのある料理を持つてくることによって改善できたと感じる。めずらしいメニューに喜ばれる方が多数おられたので、次年度も実施していく。

デイサービスでは5月に手作り餃子イベント、6月は手作りコロッケイベント、12月は揚げたて天ぷらイベント、3月は実演握り寿司イベントを実施しみなさんに喜んでいただけた。また9月には初めてデイサービスでおやつレク(手作りクレープ)を実施し喜んでいただけた。

平成29年 行事食一覧

4月	4日…郷土料理(青森県：マタギ飯、いがめんち、煮和えっこ、けの汁) 17日…ホットプレートビビンバイベント(デイ)
----	--

	<p>21日…変わり粥(さつまいも粥)</p> <p>30日…家族会(洋食弁当：9品、菜飯御飯、コンソメスープ)→キザミ食以下はソフト食</p>
5月	<p>5日…端午の節句(おやつ：柏餅、キザミ以下よもぎ団子)</p> <p>14日…母の日(赤飯、天ぷら盛り合わせ、二色なます、すまし汁)</p> <p>17日…サンドイッチイベント(サンドイッチ、ポテトサラダ、具だくさんポトフ)</p> <p>22日…お好み焼きイベント(桔梗)</p> <p>25日…実演焼き餃子イベント(デイ)</p> <p>26日…変わり粥(鮭ぞうすい)</p>
6月	<p>7日…季節の料理(豚肉と新生姜の炊き込みご飯、鯡の南蛮漬け、高野豆腐の含め煮、具だくさん汁)</p> <p>15日…お好み焼きイベント(紅葉)</p> <p>16日…和菓子の日(おやつ：若鮎)</p> <p>19日…実演揚げたてコロケイイベント(デイ)</p> <p>23日…変わり粥(卵粥)</p> <p>27日…ちらし寿司の日</p> <p>29日…デイ家族会(おやつ：手作りオレンジヨーグルトケーキ)</p>
7月	<p>7日…七夕(七夕そうめん、いなり寿司、茄子の煮付け、甘酢生姜)</p> <p>17日…海の日(海老とアスパラのクリームスパゲティ、シーフードサラダ、コンソメスープ)</p> <p>21日…変わり粥の日(きのこ雑炊)</p> <p>21日…実演！お好み焼き&焼きそば(デイ)</p> <p>25日…土用の丑の日(鰻ちらし、野菜の煮物、すまし汁、甘酢生姜)</p> <p>26日…郷土料理～岩手県～(盛岡ジャジャ麺、菜飯ごはん、煮しめ)</p>
8月	<p>1日…PL花火(夕食：彩りサラダ寿司、茶わん蒸し等)</p> <p>7日…立秋(季節の食事：炊き込みご飯、天ぷら盛り合わせ、和風ひじきサラダ、すだちのお吸い物)</p> <p>18日…変わり粥の日(鮭ぞうすい)</p> <p>11日…山の日(山の幸御膳：山菜ごはん、豆腐ハンバーグ、きのこ長芋の和風サラダ、具だくさん汁)</p> <p>24日…カレーバイキング：お好きな野菜をトッピング(特養・デイ・結まーる)</p> <p>27日…夏祭り弁当(俵おにぎり、たこ焼き、焼きそば、卵焼き、鶏のから揚げ、じゃがバター、とうもろこしのソテー、フランクフルト、フルーツ杏仁、味噌汁)</p>
9月	<p>11日…デイおやつレク(手作りクレープ)</p> <p>12日…実演！お好み焼き(向日葵)</p> <p>18日…敬老の日(赤飯、天ぷら盛り合わせ、菊花和え、卵豆腐～茸あんかけ～、すまし汁)→松花堂弁当 おやつ：特養→甘納豆と鈴カステラ、デイ・結まーる→うさぎ饅頭</p> <p>22日…変わり粥の日(さつまいも粥)</p> <p>23日…秋分の日(舞茸と栗の炊き込みご飯、秋刀魚の焼き浸し～柚子風味～、蒸し茄子の胡麻和え、きのこ汁) おやつにおはぎ提供。</p>

	28日…セレクト食(チキン南蛮 or 鮭の南蛮漬)
10月	<p>4日…中秋の名月・十五夜(さつま芋ご飯、秋刀魚の香味おろしかけ、ほうれん草となめ茸の和え物、けんちん汁 おやつ：おはぎ)</p> <p>9日…体育の日(秋鮭と茸の炊き込みご飯、鶏肉の松風焼、里芋と南瓜の煮物、かぶのお吸い物)</p> <p>19日…実演！お好み焼き(桜)</p> <p>20日…変わり粥の日(茶粥)</p> <p>22日…家族会(いなり寿司、天ぷら盛り合わせ、炊き合わせ、千草焼、冬瓜と湯葉のお吸い物、リンゴのコンポート)</p> <p>27日…郷土料理：秋田(御飯、鮭のくずかけ、ほろほろ、いものこ汁)</p> <p>31日…ハロウィン(かぼちゃのドライカレー、コルカノン、フルーツ) デイおやつレク(手作りかぼちゃのホットケーキ)</p>
11月	<p>7日…立冬/鍋の日(デイ：みぞれ鍋イベント)</p> <p>23日…お好み焼き(銀杏)</p> <p>24日…変わり粥(ゆかり粥)</p> <p>27日…実演！握り寿司イベント(2階3ユニット)</p>
12月	<p>6日…お好み焼きイベント(水仙)</p> <p>22日…変わり粥(きのこ雑炊) 冬至(ちらし寿司、冬至南瓜、茶碗蒸し)</p> <p>17日…餅つき大会(おやつ：ぜんざい)</p> <p>24日…クリスマスイブ(おやつ：手作りクリスマスケーキ)</p> <p>25日…クリスマス(エビピラフ、グリルチキン、イタリアンサラダ、コーンクリームスープ)</p> <p>27日…揚げたて天ぷらイベント(デイ)</p> <p>31日…年越しそば(夕食)</p>
1月	<p>1日…おせち料理(朝・昼のみ。昼は松花堂弁当にて提供)</p> <p>3日…変わり粥(カニ雑炊)</p> <p>7日…七草粥(全員七草粥で提供)</p> <p>11日…鏡開き(おやつ：おしるこ)</p> <p>15日…小正月(赤飯、天ぷら盛り合わせ、茶わん蒸し、赤だし)</p> <p>24日…デイイベント(おでん)</p> <p>30日…郷土料理(山形県：御飯、芋煮カレーうどん、ふきの炒り煮、山形青菜漬)</p>
2月	<p>3日…節分(太巻き寿司、鰯の梅煮、けんちん汁、甘酢生姜)</p> <p>11日…建国記念日(赤飯、天ぷら盛り合わせ、茶わん蒸し)</p> <p>14日…バレンタイン(手作りチョコバナナケーキ)</p> <p>21日…ちゃんこ鍋(デイ)</p> <p>23日…変わり粥(芋粥)</p>
3月	<p>3日…ひな祭り(雛寿司、わけぎのぬた和え、海老しんじょうの吸い物、甘酢生姜) →おやつにさくら団子</p> <p>13日…実演！握り寿司イベント(銀杏ユニット、デイ)</p>

21日…春分の日(かおりご飯, にしんそば, 筍の土佐和え, 漬物) →おやつにぼたもち(キザミ以下は四等分にカット)
23日…変わり粥(卵粥)
30日…セレクト食(カツカレーorカツ丼)

平成29年度 食事におけるヒヤリハット・事故報告書件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
発生状況	数量	食器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	間違い	食事	0	0	0	0	1	3	1	0	2	1	0	0	8
		場所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	配膳ミス	形態	2	0	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0	6
		禁止	0	3	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	6
		提供献立	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	味付け	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	異物混入	3	0	2	2	0	2	1	0	1	1	1	1	1	14
	その他	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6
	合計	8	4	4	2	4	5	3	1	4	3	1	2	41	
場所	桔梗	0	0	0	0	1	3	1	0	1	0	0	1	7	
	向日葵	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	水仙	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	
	紅葉	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	桜	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	銀杏	0	2	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	6	
	デイサービス	3	1	2	2	2	1	0	0	1	2	1	0	15	
	結いまる	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	
	1階職員休憩室	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3	
	その他	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	
合計	8	4	4	2	4	5	3	1	4	3	1	2	41		
時間	朝食	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	4	
	昼食	3	1	4	2	3	4	1	0	4	2	1	2	27	
	おやつ	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
	夕食	1	1	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0	6	
	合計	8	4	4	2	4	5	3	1	4	3	1	2	41	

(5) 健康管理・医療体制

1) 目標

- ①ケアカンファレンスなどで他部門と情報を交換、共有し高齢者の特性を理解したうえで、施設での生活が安全に安楽に少しでも長く過ごしていただけるよう、ご家族とも連絡を密に取りな

がら援助した。

- ②異常の早期発見に努めたが、認知症という背景もあり、高齢に伴う見守り可能な変化なのか、判断が非常に難しかったが、廻診時に健康状態を的確に報告し指示を受け、状態悪化を防ぐことができた。受診時、必要時は付き添い、医療機関との連携や家族対応を行えた。
- ③他部門職員に対し介護上、必要と思われる入居者の健康状態の情報を適時に発信し、予測される変化やその対応についても助言した。特に夜勤への申し送りの際にはそれらを徹底し、オンコール体制は常勤職員3名で対応し、介護職員が安心して夜勤業務ができるように努めた。
- ④血液、尿検査は6か月毎とし、状態の変化があった際は医師の指示のもと随時検査をした。インフルエンザ感染を疑う入居者3名については、迅速判定キットにて検査しいずれも陰性であった。処置については表皮剥離するケースが多いため、早期治癒が期待できる創傷被覆材の導入を検討中である。
- ⑤施錠できる薬剤庫にて管理した。介護職員には入居者の内服している薬剤情報のファイルを提供した。
- ⑥インフルエンザの予防接種は11月中旬に入居者45名、職員71名を施設医にて接種した。肺炎球菌ワクチンは今年度の定期接種該当者4名。ご家族に説明し接種希望者には所定の手続きをし、2名が受診先で接種し1名は施設より近隣病院へ看護職員が付き添った。レントゲン撮影は近隣病院にて撮影し入居者46名分を施設医に読影してもらい、精密検査が必要な症例はなかった。

2) 感染予防

- ①今年度は例年に比べ早期にインフルエンザが流行し、記録的な大流行となった。感染対策委員と連携し感染防止対策を徹底した。入居者の感染者は認めず。職員6名の感染はあったが蔓延はしなかった。
- ②スタンダードプリコーションの観点で業務における問題点を見だし指導、支援した。
- ③感染の勉強会や、厚労省発信の感染に関する文書を提示し、正しい知識の習得と手順に沿った対応を指導した。

3) 職員の健康管理

- ①5月は全職員、10月は当直職員の健康診断を実施し産業医による診断を受けた。各自に結果を報告し、衛生管理者と健康状態の把握に努めた。9月には全職員のストレス検査を実施した。結果を各自に返却し相談窓口を設けたが相談者はいなかった。
- ②健康に対する相談は、産業医にも報告し個人情報を守りながら安心して就労できるような的確に対応した。

4) 『陽だまりの丘』における看取り体制

- ①ご家族と話をする場を出来るだけ多く持ち、日々のご様子を丁寧に説明し、終末期を理解し、向かいあっていただけるようはたらきかけた。自宅での看取りを希望されるご家族に対しては、在宅における介護支援相談員を紹介し、具体的かつ慎重に施設医にも相談しながら話をすすめている。
- ②出来る限り希望に添えるよう、施設医に状況を報告、相談しながら他職種とも連携し、入居者本人が主体という観点で、終末期を安心して安楽に過ごして頂けるよう援助した。
- ③より多く関わりを持つことで、看取り期における状態の変化を予測し、終末期は日常のケアの

延長線上にあるものと職員全員が認識できるよう、カンファレンスなどで他部門職員にはたらしきかけた。

受診総数 363 件(前年 543 件) 救急搬送 6 件(前年 12 件) 入院 22 件(前年 34 件) 軽快退院 13 名、療養型入居 2 名、入院後死亡 3 名、医療機関に入院 4 名であった。オンコールは 23 件(前年 25 件)発熱や血中酸素濃度の低下や転倒、薬関連などが多かった。今年度、受診数や入院件数が減少したのは早期対応したことはもちろん、昨年度に死亡を含む退所者が多く、新入居への入れ替わりが多かったことも要因だと考える。また、救急搬送のうち夜間が 4 件あり、2 件は重篤な症例であったが介護職員の早期発見により早期対応、治療に繋がった。入居者の高齢化が進むなか、持病の悪化や突然の体調不良など増々、多くなっていくと考えられる。今後より一層の状態の観察と早期発見が行えるよう努めていく。

受診・入院 年度比較	受診数	入院数
平成 25 年度	250	36
平成 26 年度	491	21
平成 27 年度	412	34
平成 28 年度	543	34
平成 29 年度	357	22

平成 29 年度 病院受診状況

受診科	受診数	往診	受診科	受診数	往診
眼科	86	86	脳神経外科	18	0
整形外科	27	0	神経内科	17	0
内科	58	0	耳鼻咽喉科	1	0
歯科	55	55	循環器科	8	0
泌尿器科	37	0	救命救急	7	0
皮膚科	12	0	その他(ペイン)	3	0
外科	28	0	合計	357	141

(6) 機能訓練

- 1) 筋緊張緩和をメインに行っている。意思の疎通が難しい入居者とご家族となかなか会えないことがあるため、計画内容の継続もしくは独断で変更することがある。
- 2) 訓練中の会話による心理面のアプローチは行なえているが、環境面はあまり直接的には関わっていない。
- 3) 定期的にカンファレンスに参加し、情報を共有。新しい情報は各ユニットの担当者より伝えてもらっている。
- 4) その都度、本人の意向を会話・表情から読み取り訓練に反映している。上記と同様にその日の状況を把握し訓練に反映している。

3) 安全対策委員会の開催

- ・毎月、安全対策委員会を開催した。
- ・事故内容を各部門で集計、分析し内容を把握し改善策を検討した。来年度はより深く分析し事故防止に努めます。

(7) 事故防止

- 1) 入居者の転倒や転落の事故を防止するために、環境整備、介護機器の点検と整備を徹底した。
- 2) 『事故・ヒヤリハット報告書』は速やかに報告書を作成し、職員全員が内容を把握できるように掲示した。また各ユニット、部門にて要因や改善策について検討した。

介護保険事業者事業報告 (平成 29 年 4 月 1～平成 30 年 3 月 31 日)

届出件数 1 件

内容 加齢による(骨粗鬆症)自然骨折 1 件

立ち上がりふら付かれたため、職員が支える。次の日受診すると骨折と診断。

事故・ヒヤリハット事例の集計、分析 (特養) (平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

<月別報告件数>

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
事故報告	23	22	8	12	17	7	11	10	20	13	11	13	167
ヒヤリハット	15	11	5	14	8	11	4	4	15	4	15	13	119
合計	38	33	13	26	25	18	15	14	35	17	26	26	286

<時間帯別報告件数>

時間	0～ 1:59	2～ 3:59	4～ 5:59	6～ 7:59	8～ 9:59	10～ 11:59	12～ 13:59	14～ 15:59	16～ 17:59	18～ 19:59	20～ 21:59	22～ 23:59	合計
事故報告	5	3	9	14	12	16	14	22	17	35	10	10	167
ヒヤリハット	14	6	2	13	12	9	15	15	11	10	5	7	119
合計	19	9	11	27	24	25	29	37	28	51	15	17	286

<年度別報告件数・特養>

	転倒	転落	座り 込み	薬関連	内出血	裂傷 表皮剥離	誤嚥	危険 行為	火傷	その他	合計
H. 25 年度事故	22	10	16	29	103	30	0	1	5	18	234
ヒヤリハット	13	5	1	9	1	0	0	1	71	59	160
H. 26 年度事故		10	7	41	70	19	2	2	1	19	198
ヒヤリハット	73	27	0	23	4	11	1	5	0	20	164
H27 年度事故	44	17	24	45	25	24	1	1	2	17	200
ヒヤリハット	61	24	0	15	4	4	0	7	0	25	140
H. 28 年度事故	70	29	29	45	16	26	3	1	0	18	237

ヒヤリハット	74	22	0	4	1	3	9	0	0	18	131
H.29年度事故	29	17	21	36	18	20	3	6	0	17	167
ヒヤリハット	57	11	5	2	1	1	10	1	0	31	119

今年は薬関連が圧倒的に多く、転倒座り込みと続く。服用忘れ、服用間違いと職員による人為的 사고が多い。忙しさの中にあっても確認や注意を怠らず防ぐ努力が必要である。その次に多いのはご自分で動けると思い動かれることによって転倒、座り込みにつながっている。ADLの低下を自覚されない又は認知症の進行により理解出来ない方に頻回に起こる事故によるものが多い。防ぐことは難しいがだからといって仕方ないではなく少しでも減らせるよう、注意深く観察し行動パターン掴むことが必要である。ヒヤリハットによる注意喚起のおかげで転倒の事故件数が前年度より減っている。4,5月には多くでるヒヤリハットが6月頃になると極端に減る。危険な行動に鈍感になりがちなので常に緊張感をもって介助する。

事故・ヒヤリハット事例の集計、分析（ショートステイ）（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

<月別報告件数>

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
事故報告	6	3	5	4	5	1	6	6	7	5	5	8	61
ヒヤリハット	5	0	0	2	0	0	5	6	4	2	2	4	30
合計	11	3	5	6	5	1	11	12	11	7	7	12	91

<時間帯別報告件数>

時間	0～ 1:59	2～ 3:59	4～ 5:59	6～ 7:59	8～ 9:59	10～ 11:59	12～ 13:59	14～ 15:59	16～ 17:59	18～ 19:59	20～ 21:59	22～ 23:59	合計
事故報告	1	1	2	7	13	5	7	7	7	6	2	3	61
ヒヤリハット	1	1	1	1	2	1	5	7	3	2	3	3	30
合計	2	2	3	8	15	6	12	14	10	8	5	6	91

<年度別報告件数・ショートステイ>

	転倒	転落	座り 込み	薬関連	内出血	裂傷 表皮剥離	誤嚥	危険 行為	火傷	その他	合計
H.25年度事故	9	0	4	10	4	3	0	0	1	6	37
ヒヤリハット	10	0	1	5	0	0	0	0	20	13	49
H.26年度事故	2	4	1	15	2	1	0	0	0	1	26
ヒヤリハット	10	0	1	5	0	0	0	0	20	13	49
H.27年度事故	11	3	4	10	2	2	0	1	0	5	38
ヒヤリハット	36	0	0	1	0	0	1	0	0	8	46
H.28年度事故	17	2	5	14	2	2	0	0	0	11	53
ヒヤリハット	20	1	0	3	0	0	2	0	0	8	34

H. 29 年度事故	13	5	9	19	3	2	0	4	0	6	61
ヒヤリハット	15	0	0	1	0	0	5	3	0	6	30

今年度もヒヤリハットの件数より、事故の件数の方が多かった。(昨年度:事故 53 件・ヒヤリハット 34 件)また、ヒヤリハットの 2 倍も事故が発生している。小さな気付き、ヒヤリハットに対し、報告・周知徹底をし、事故の件数が減少するよう、努める必要がある。事故の内容で最も多かったのが薬関連で、薬が落ちていた件・食前薬の内服忘れが多かった。1 件でも減らせるよう、職員一人ひとりが服薬のマニュアルを再確認し、事故防止に努める。ヒヤリハットでは、転倒に繋がるものが多かった。定期的に利用されている方の ADL の低下によるものや、新規利用者の行動を把握するまでのヒヤリハットが多くあがっていた。引き続き、ヒヤリハット報告書をあげ、事故を未然に防ぐ。

事故・ヒヤリハット事例の集計、分析（デイサービス）（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

<月別報告件数>

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
事故報告	3	1	5	3	1	3	2	3	0	4	2	1	28
ヒヤリハット	10	12	9	5	7	1	5	7	9	8	5	4	82
合計	13	13	14	8	8	4	7	10	9	12	7	5	110

<時間帯別報告件数>

時間	0～ 1:59	2～ 3:59	4～ 5:59	6～ 7:59	8～ 9:59	10～ 11:59	12～ 13:59	14～ 15:59	16～ 17:59	18～ 19:59	20～ 21:59	22～ 23:59	合計
事故					4	6	3	11	4				28
ヒヤリハット					14	23	18	12	15				82
合計					18	29	21	23	19				110

<年度別報告件数・デイサービス>

	転倒	転落	座り 込み	薬関連	内出血	裂傷 表皮剥離	誤嚥	危険 行為	火傷	その他	合計
H. 25 年度事故	1	1	0	0	2	3	0	0	0	7	14
ヒヤリハット	1	0	0	0	55	3	0	0	21	13	93
H. 26 年度事故	4	1	0	0	0	4	0	0	1	2	12
ヒヤリハット	14	0	0	0	1	0	0	0	7	19	41
H. 27 年度事故	8	1	1	5	5	0	2	6	0	4	32
ヒヤリハット	15	2	0	0	2	1	0	7	0	9	36
H. 28 年度事故	16	0	1	1	0	1	1	4	0	5	29
ヒヤリハット	30	2	0	1	0	0	2	5	0	11	51
H. 29 年度事故	9	1	3	1	3	4	2	0	0	2	25
ヒヤリハット	41	0	0	0	2	0	7	1	1	21	73

昨年に比べ事故報告書の件数は減少した。ヒヤリハットの件数は上昇している。転倒に関するヒヤリハットが 2 倍に増えるなど、下肢筋力の低下が否めない。それを示すように時間帯別の朝・夕の送

迎時間、昼食前の時間帯などでのヒヤリハットが増えていた。一方で、送迎中のヒヤリハットも上がっていたので、大きな事故に繋がらないよう、職員間で確認し合い、安全運転を継続する。

(8) 年間行事

1) 1年を通して季節感を感じてもらえる行事を開催することができた。天候の影響で開催日や内容が変更になることがあったため、開催方法などの再検討が必要である。また、入居者のADLが低下しているため、出来ることを考え、職員も一緒になって楽しむことができる企画を考える。

2) 活動スケジュール

行事名	月日	内 容	入居者 利用者
お花見	3月末 ～4月初	各ユニットで施設内や狭山池などに出かけ、桜の鑑賞をした。桜を見ながら昼食を食べるユニットもあり、各ユニットで季節感を感じていただいた。	46名
外出	5月～ 翌年3月	ユニットによって外出する職員の人数確保が難しかったり、外出当日の体調不良があり、外出が難しい入居者が増えているが、出来る限り外の空気に触れ、季節を感じていただくことができた。	45名
七夕	7/7	飾りを作れる入居者が少なくなってきた中、5月半ばから笹飾りを制作し、七夕に楽しんでいただくことができた。	50名
夏祭り	8/27	各階で盆踊りのボランティアに来ていただき、祭りの雰囲気を感じていただくことができた。	46名
PL花火	8/1	ご家族・職員と一緒にベランダや居室から花火を楽しんでいただけた。平日ということもあり、混雑なくゆっくりと観賞できた。	48名
敬老祝賀会	9/18	台風の為、安全第一考えご家族の参加を中止し、内容を変更して実施した。10名の長寿のお祝いの方がおられ、各階で余興を楽しまれる。	47名
大野台文化祭	中止	今回は、文化祭の会場が変更となったため中止となる。	
クリスマス会	12/25	クリスマスの振り付けを、各フロアで実施した。ケーキを作ったり、プレゼントをもらったり、また職員が仮装をしてクリスマスの雰囲気を感じていただけた。	47名
餅つき	12/17	1階デイサービスフロアで開催した。地域の方々も参加され、入居者の方々も餅をつき、丸めていただき昔ながらの雰囲気を感じていただくことができた。	47名
新年会	1/1	各フロアで新年の挨拶後、今年の一文字『結』を発表した。初詣も行い新しい年を迎える喜びを感じていただけた。	希望者

節分	2/3	鬼に扮した職員をめがけ、鬼退治をした。女性職員も鬼役をすることでより盛り上がった。	49名
ひな祭り	3/3	各フロアに雛人形を飾り、観賞期間を長くすることでたくさんの方の入居者の方に楽しんでいただけた。	希望者

4. 衛生管理

(1) 職場巡視

- 1) 産業医による職場巡視を月1回実施した。
- 2) 管理衛生者による職場巡視を週1回実施した。
 - ①職場巡視の一覧表及び各部門の健康管理報告書を作成し実施した。
 - ②汚物室の酸性とアルカリ性の置き場所を分けるよう指摘した。
 - ③食器棚の扉が閉まってないことがあった為、その都度指摘した。
 - ④床に水が落ちていた為指摘した。

(2) 衛生管理委員会開催

- 1) 8月、1月は職場巡視のみ実施し、その他月一回開催した。産業医より貴重なご意見をいただいた。
- 2) 職場巡視時、問題になったところ、また健康管理報告により職員の健康管理について検討した。

(3) 施設内研修開催

平成29年10月 「健康管理について」

(4) 職員の健康相談

各部門と連携を取りながら職員の健康管理に取り組んだ。

(5) 健康診断

春季、秋季（夜勤者、当直者のみ）健康診断を実施した。

(6) ストレスチェックについて

委託業者と連携し、全職員に実施した。

ストレスチェックの結果については、面接希望者は無かった。

5. リスクマネジメント

- (1) ヒヤリハット報告・事故事例を活用し、危機意識の向上となるよう取り組みを行った。
- (2) 対人事故として接触事故1件あり、迅速に対策を検討し翌日より実施した。
- (3) 計画した施設内訓練を確実に実施し、また近隣自治会の訓練等に参加し、職員の知識の向上・レベルアップを図ることができた。
- (4) 30年度は大きな事故・トラブルはありませんでしたが、感染・火災・地震等予測を想定し、発生時に迅速に対応できるよう、現状の施設緊急時組織体制を見直し職員への周知を図った。
- (5) 研修委員と連携し、年2回のリスクマネジメント研修を実施した。

6. 苦情解決

- (1) ご要望やご意見は謙虚に受けとめ、傾聴し双方のコミュニケーションの場と捉える。ご意見は

サービスの質の向上のための貴重な情報源として業務改善に繋げた。

- (2) 大阪狭山市の介護相談員の継続的な訪問により利用者、ご家族のご意見・ご要望を伝えていただけた。また介護相談員からの助言を施設として出来ること出来ないことを見極め、施設サービスの向上に繋げた。
- (3) 苦情解決委員会の開催
 - 1) 毎月1回、苦情解決委員会を開催する。解決困難な苦情発生時は緊急苦情解決委員会開催した。
 - 2) ご意見箱、口頭でのご意見、ご要望内容の把握、確認を行った。苦情解決の手順に沿って対応し、改善策を検討した。その場で解決困難時は苦情担当者、当事者、ユニットで改善策を検討した。
 - 3) 改善策は成果のモニタリングを行った。苦情申し出者にも成果をお聞きした。
- (3) 第3者委員の参加
 - 1) 内容に応じて第3者委員にも参加していただきご意見を伺った。
 - 2) 検討された内容については、段階を経て職員に公表し改善策を実施した。
 - 3) マニュアル、手順を見直した。
- (4) 職員の研修
 - 1) 苦情解決に向けて施設外研修に参加した。
 - 2) 研修委員と連携し、年2回のリスクマネジメント研修を実施した。

発生件数

	ケア内容	接遇	食事	その他	合計
特養	3	0	0	2	5
ショートステイ	0	0	0	0	0
デイサービス	2	2	0	1	5
合計	5	2	0	3	10

7. 防災安全対策

- (1) 防災と安全確保の為に、詳細な消防計画に基づいた訓練を実施する。
 - ・9月9日(木)、3月15日(木)に自衛消防訓練実施。
- (2) 事故防止の訓練及び研修を通じて、危機意識や安全の確認点検意識を高める
 - ・9月9日(木)は夜間帯の火災を想定での実施。3月15日(木)は日勤帯での火災を想定で実施した。ともに、水消火器を消防署より借りて実施。
- (3) 防災対策指針及びマニュアルを基本に対応する。
 - ・防災マニュアルの見直しを実施。計画停電時に考えられた必要な対応をマニュアルに導入した。
- (4) 訓練は事故が発生しないように配慮して行う。
 - ・自衛消防訓練中において見守り等が疎かにならないよう待機者を設け、事故発生防止に努めた。
- (5) 主な防災対策

- 1) 避難訓練の実施
 - ・上記（１）の内容と同等。
- 2) 防災用非常食の備蓄
 - ・パン・粥・五目粥を購入。水も購入した。
- 3) 消防署、地域等の訓練参加、連携を図る
 - ・訓練への参加はなし。自衛消防訓練に自治会・役員の方に参加していただき、意見交換などを行う。
- 4) 消防設備及び避難口の点検（業者の定期点検、自主点検の実施）
 - ・外部委託、ユニテックス年２回の定期点検を実施。

8. 設備管理計画

利用者・職員が安全で快適に過ごせるよう、建物・設備・機器等の保守点検・維持管理・整理整頓・清掃に努め、日常点検・定期点検・法定点検を確実に行ったものの、老朽化・経年化等の要因により小トラブルが頻繁に発生したため、早期発見・早期報告・迅速な修理・交換等の対応を行った。

項目	実施日	結果
建築設備定期検査	12/8	異常なし
エレベーター設備	遠隔リモート点検(毎月実施) 現地点検 4/5、7/31、10/5、1/5	4/25 非常用バッテリー交換 8/29 に法律改正によりカウンター取り付け
ダムウェーター設備	現地点検 4/5、7/31、10/5、1/5	異常なし
高圧電気設備	4/13、6/8、8/8、10/11、12/7、2/9	異常なし
消防設備	7/18、1/24	異常あり。非常ボタンと119番への自動発信装置に不備あり。修正予定。
受水槽清掃	2/20	異常なし
水質検査 16・12・10	16項目 9/28, 12項目 9/28, 10項目 9/28	異常なし
水質検査 (レジオネラ菌)	5/31、9/28	異常なし
害虫駆除・防除管理	5/31, 11/8	異常なし
グリストラップ清掃	6/9, 11/15	異常なし
屋外排水管洗浄	11/15	異常なし
汚水槽清掃	6/9, 11/15	8/30 汚水槽ポンプ交換
貯湯槽清掃	11/10	異常なし
浴室ろ過機装置設備	6/28、11/10	異常なし
給湯器ボイラー設備	6/9、11/10	4/25 ボイラー修理
厨房設備 (食器消毒保管庫・ガスバスター・食器洗浄機)	4/14、8/29、10/16	4/15 スチームコンベクションオープン交換 2/14 ガスコンロ交換
屋上室外機	年間4回程度実施	異常なし
室内エアコン	随時	異常なし
消火器・消火栓	7/18、1/24	異常なし
屋上	週1回程度実施	異常なし

ベランダ	週 1 回程度実施	異常なし
建物周囲	随時	異常なし
送迎車両	法定点検・車検／随時 月次点検／毎月（各担当者にて実施済み）	4/14 ハイエースリフト修理 4/24 ハイエースバッテリー交換 4/25 ハイゼットベルト・タイヤ交換 9/7 カーゴタイヤ交換 9/17 ワゴン R ベルト、ATF オイル交換 11/12 セレナブレーキオイル交換 1/9 ワゴン R バックドアバランサー交換 1/27 ワゴン R リアバンパー交換 2/10 ハイエース、ガスケット交換
ナースコール	各ユニットにて実施	受信不具合修理
洗濯機・乾燥機	随時	4/15 故障により洗濯機と乾燥機を新品に交換
車イス	各ユニットにて実施	異常なし
換気扇	随時	2/10 医務トイレ換気扇故障修理保留
業務用洗濯機・乾燥機	8/25、11/15、2/15	都度消耗品交換 異常なし
（その他 不具合・補修対応） ・非常用誘導灯バッテリー交換 ・自動水栓交換、職員用出入口扉修理、ガスヒーポン修理・室内エアコン修理 ・車椅子、ベッド修理	車両	走行距離
	ハイエース	83,358 km
	ハイゼット	106,554 km
	カーゴ	43,638 km
	ワゴン R	92,909 km
	セレナ	2,038 km
	ワゴン R 2	3,338 km

9. 地域活動

- (1) 地域行事に参加し、また施設行事やボランティア参加を地域の方々に呼びかけ交流を図り、親睦を深めた。
- (2) 利用者の求めるボランティアの受け入れや態勢の見直しを行い、継続的な活動に繋げた。
また活動を通じて達成感や施設に対する信頼を抱いていただける関係作りに努めた。
- (3) 福祉避難所としての指定や防災協定についての理解を深め、非常災害時には責任を持って貢献し、地域との協力体制や信頼関係の構築を目指した。

(4) 地域の園児・小学生の施設見学や交流の機会を図った。

10. ご家族との交流

- (1) 面会時には、必要な報告等をスムーズにご家族へ伝えることができた。また、普段の生活についてなど何気ない会話から話しかけやすい雰囲気作りに努めた。
- (2) 家族会やPLの花火大会、陽だまり喫茶の開催にて、ご家族同士や職員との交流ができ直接ご家族からの声を聞くことができた。
- (3) ご家族がいつでも陽だまりの丘の様子がわかるようブログ更新に努め、また年4回の“陽だまりの丘だより”の定期的な発行を行った。

11. 個人情報の保護

- (1) 個人情報保護・特定個人情報取扱に関する規程に基づき、適切な保管やアクセス管理を行った。漏洩などの問題が発生はなかった。
- (2) 利用目的を掲示及び契約書等へ明記することで利用者・ご家族への理解を得、情報を適正に使用した。
- (3) 職員採用時には守秘義務誓約書等の提出を義務付け、漏洩防止を図ることができた。
- (4) 個人情報保護や特定個人情報に関する施設内研修を開催し、勉強会にて情報保護についての意識向上を高めた。

12. 会議・委員会・ミーティング

委員会	開催日	主な内容
運営会議	第2火曜日	・施設運営に関する重点課題・問題解決
入居選考委員会	第1金曜日	・入居待機者の情報交換 ・入居選考指針に基づいた入所者選考の実施
苦情解決委員会	第2火曜日	・苦情（相談、要望）受付時の対応 ・解決に向けての対策の検討と対応の統一 ・職員への公表、改善策の周知徹底 ・第三者委員の参加
安全対策委員会	第3火曜日	・再発防止策の検討・策定 ・防止策実施後の評価 ・指針・マニュアルなどの作成と見直し ・委員会開催時間の変更 ・機器・器具・設備の点検と検討 ・施設内研修計画・実施
感染予防対策委員会	第2月曜日	・標準感染予防対策の周知徹底 ・感染予防対策の早期実施及び発生時の拡大回避策の迅速化 ・勉強会、研修の計画と実施
身体拘束廃止委員会	第2月曜日	・身体拘束ゼロ対策

	(偶数月)	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束が必要になった時の手順の把握と周知 ・虐待への理解と防止策 ・職員の研修計画と実施
褥瘡予防委員会	第2月曜日 (奇数月)	<ul style="list-style-type: none"> ・褥瘡予防計画書の作成 ・褥瘡予防への理解と周知 ・施設内研修による褥瘡についての職員への周知
栄養改善委員会	第4月曜日	<ul style="list-style-type: none"> ・食事のイベントの計画、報告、評価 ・ハーフ食の検討、経過観察、評価 ・食事提供ミス・異物混入等の報告、改善策検討 ・食事意見表を基にした食事提供についての検討 ・食中毒予防対策の周知と徹底
レク・行事委員会	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者のADL、希望に応じた企画の立案と実施 ・各行事担当による、前年度の課題を活かした企画の立案 ・行事開催後の振り返りと課題の抽出
研修委員会	第3水曜日	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内研修の立案・研修内容、実施時間、実施場所の検討 ・研修内容の振り返りと見直しと確認 ・研修不参加職員への研修内容の周知
広報委員会	第1水曜日	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの修正と更新 ・広報紙の作成と発行
防災対策委員会	第2金曜日	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な防災対策研修と非難訓練の実施 ・防災マニュアルの見直し・更新 ・地域との防災協定の締結 ・定期的な防災対策研修と非難訓練の実施 ・備蓄品の充実
衛生委員会	第3火曜日	<ul style="list-style-type: none"> ・職場巡視指摘事項、問題点を検討 ・職員の健康障害を防止するための対策を検討 ・職員の健康の保持増進を図るための対策の検討 ・労働災害の要因となる事項の検討、改善
ユニットリーダー ミーティング	第1火曜日	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の見直し、実施方法の検討と決定 ・各委員会、会議、部門との連携 ・職員教育、指導方法の検討
ユニットミーティング	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・個別ケアの確認、見直し、周知 ・事故・ヒヤリハット報告書の要因、改善策の検討 ・ユニット業務の見直し、検討 ・ユニット行事の企画 ・ユニットの目標の立案と評価 ・ユニットリーダー会議からの報告
相談員会議	第2月曜日	<ul style="list-style-type: none"> ・利用状況実績、予定の報告 ・稼働率向上対策

看取り委員会	随時	・陽だまりの丘としての看取りケア実施に向けて検討 ・終末期の入居者のカンファレンス
--------	----	--

13. 研修

(1) 施設内研修

- 1) 年間計画に沿って、施設内研修を出来る限り実施した。一部講師不足により研修が出来ないこともあったが、資料を配布し内容を理解できるように努めた。
- 2) 今年度は参加人数の確保が難しく、申し送り時に資料を配布し簡潔に研修を行った。来年度は、グループワークを取り入れた参加型の研修が出来るよう努める。
- 3) 講師と打ち合わせを行い、事前に発信することで職員が興味を持って参加できた。
- 4) 研修後は報告書と資料を掲示し、事前に発信することで参加していない職員にも周知した。

(2) 施設外研修

職員それぞれのスキルに応じて、必要な研修を選抜し受講してもらうことができた。また研修に応募したが、定員オーバーや抽選などで不決定も多く、参加できなかった。来年度は、幅広くまた多くの職員に参加できるよう努める。

施設内研修報告（別表1）

月/日	研修名	担当講師	参加人数 (講師除く)
4/19	施設の理念・方針 / 接遇	施設長	12名
5/17	救命救急法	防災委員会	12名
5/24	倫理及び法令遵守	副施設長	10名
6/29	感染予防・食中毒予防	感染予防委員・管理栄養士	11名
7/19	褥瘡予防対策・機能訓練	褥瘡対策予防委員	11名
8/23	身体拘束・虐待防止対策・人権について	身体拘束禁止委員	8名
8/16	リスクマネジメント	安全対策委員	13名
9/20	非常災害時の対策と訓練	防災対策委員	7名
9/27	介護職員に必要な医療知識	看護職員	7名
10/25	認知症ケア	認知症実践研修受講者	9名
11/16	感染予防	感染予防委員	7名
11/29	ユニットケア/看取り介護	ユニットリーダー/介護支援専門員	11名
12/20	職員の健康管理	衛生管理者	15名
1/17	介護保険制度	介護支援専門員	10名
1/24	個人情報保護	事務主任	16名
2/21	リスクマネジメント	安全対策委員	10名
3/21	非常災害時の対策と訓練	防災対策委員	12名

(別表2) 施設外研修 参加一覧

No	研修日	研修名	主催	参加者職種
----	-----	-----	----	-------

1	4/13	夏に向けての行事食	岸和田テストキッチン	管理栄養士
2	6/16, 23, 30 7/7, 14, 21, 28	社会福祉法人会計の簿記入門 初級講座	大阪社会福祉指導センター	管理部門長
3	5/12	平成 29 年度介護保険指定居宅サービス 事業者等集団指導	南河内広域事務所	生活相談員
4	6/2, 7, 14, 19 22, 26, 30	認知症介護実践研修 認知症介護実践研修事務局	社会福祉法人 聖徳会	ユニットリーダー
5	6/6	集団指導（指定介護老人福祉施設）	大阪府	副施設長 管理部長
6	6/7	感染症・食中毒予防対策	福祉と人権の研修 ネットワークおおさか	介護職員
7	6/19, 7/26, 8/31	管理職研修会	大阪府社会福祉協議会	副施設長
8	6/23	施設中堅職員が知っていおきたい3 つの組織的役割	近畿老人福祉施設協議会	介護職員
9	6/23	大阪府市町村社会福祉法人 施設等指導監査合同	南河内広域事務室	副施設長
10	7/22, 8/19	身体拘束ゼロ推進員養成研修	大阪府社会福祉事業団	介護職員
11	8/1, 10	福祉職員キャリアパス対応研修課程 ～管理職～	大阪府社会福祉協議会	生活相談員
12	8/21	災害時の非常食アンケートの結果	大阪府富田林保健所	管理栄養士
13	9/19, 29, 10/2, 5, 11, 23 11/10, 29	認知症介護実践研修	社会福祉法人 聖徳会	介護職員
14	10/16, 24, 31	福祉職員キャリアパス対応 ～中堅職員編～	大阪府社会福祉協議会	介護職員
15	11/8	第2回 感染症予防対策	大阪福祉人材支援センター	介護職員
16	11/24	特定給食講演会	公益社団法人 大阪府栄養士会	管理栄養士
17	11/29	第2回 福祉会研修会の開催について	富田林保健所 特定給食研究会	管理栄養士
18	12/1	介護リーダーに必要な リーダーシップ	全国個室ユニット型施設 推進協議会	ユニットリーダー
19	12/5	会計管理者担当者研修会	大阪府社会福祉協議会	副施設長

20	H30 1/11	4月からの新しい介護報酬制度の準備と対策講座	りそな銀行 りそな総合研究所	副施設長
21	1/27	ご近所福祉サミット in 南中	大阪狭山市健康福祉部	施設長
22	1/11	人と組織を強くするビジネスメソッド	日本生命保険総合会社	副施設長
23	1/30	雇用管理改善セミナー	大阪府社会福祉協議会	施設長
24	2/1	人権問題企業啓発講演会	大阪狭山市企業人権協議会	施設長
25	2/27	第3回 集団指導養成教室	大阪府社会福祉協議会	介護職員
26	3/19	普通救命講習及び再講習実施	大阪狭山市防火協会	介護職員
27	3/26	介護報酬制度改定対策講座	九州福祉学院	事務職員
28	3/31	大阪民間共済会 会計実務研修会	大阪民間社会福祉事業 従事者共済会	副施設長
24	11/7, 8, 9, 11/28~12/2	エットリーダー研修	日本エットケア推進センター	エットリーダー

14. 事務・管理

- (1) 経理担当を中心に収支・経営状況を把握し、必要な対策を講じることができた。分析しきれなかった点については今後の課題として平成30年度に対応を行うことで管理部門としてより生産性を高めたいと考えています。
- (2) 平成29年度において長期間管理部門で勤務した職員が退職したこともあり、一時的に業務が円滑に進まない時期もありましたが、業務分担の見直しや業務の効率化を管理部門内で議論し、良い状況に繋げることができた。
- (3) 就業規則を職員に周知することは行えたが、労務関係の見直し及び処遇改善・職場環境改善を着手することができなかった。
- (4) 入居者における介護保険の更新においては問題なく取り行うことができたが、社会保険制度については一部確認不足により把握が漏れていた。管理部門内で対策を検討し再発防止に努めます。
電力自由化に伴い、関西電力を大阪ガスに変更することで合意した。光熱費削減に繋げることができた。

資料 年間利用状況

【入所者数】（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

年月	日数	入所		短期入所		ベッド稼働率
		延入所者数	平均入所者数	延利用者数	平均利用者数	
H29.4	30	1,444	48.1	302	10.0	96.8
5	31	1,424	45.9	310	10.0	93.1
6	30	1,401	46.7	299	9.9	94.3
7	31	1,462	47.1	279	9.0	93.5
8	31	1,504	48.5	311	10.0	97.5
9	30	1,472	49.0	299	9.9	98.1
10	31	1,501	48.4	309	9.9	97.1
11	30	1,433	47.7	297	9.9	96.0
12	31	1,469	47.3	308	9.9	95.3
H30.1	31	1,482	47.8	306	9.9	96.1
2	28	1,372	49.0	282	10.0	98.3
3	31	1,519	49.0	307	9.9	98.1
合計	365	17,484	47.9	3609	9.8	96.1

【年齢別状況】（平成29年3月31日現在）

年齢(歳)	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	平均
男	0	0	0	0	3	3	0	1	0	86.9
女	0	0	3	3	9	9	15	4	0	87.0
合計	0	0	3	3	12	12	15	5	0	87.0

【介護度状況】（平成30年3月31日現在）

介護度	1	2	3	4	5	合計	平均
男	0	0	0	3	4	7	4.5
女	0	3	10	17	13	43	3.9
合計	0	3	10	20	17	50	4.0

【入居・退居者数】（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入居	男	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	女	1	0	0	2	0	0	1	0	1	0	0	1	6
	合計	1	0	0	2	1	0	1	0	1	0	0	1	7
退居	男	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	女	0	2	0	1	0	0	1	0	1	1	0	0	6
	合計	0	2	1	1	0	0	1	0	1	1	0	0	7

【面会・外泊・外出状況】（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
面会者		370	367	356	398	390	396	388	354	371	392	376	403	4,561
外泊	人数	1	2	1	4	2	0	2	0	1	3	0	1	17
	述べ日数	2	5	3	8	5	0	4	0	2	11	0	3	43
外出者		29	28	20	18	23	19	16	23	17	14	10	18	235

【ボランティア来訪回数】（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

		ボランティア名	来訪日	来訪合計回数	ボランティア名	来訪日	来訪合計回数
特養	傾聴		月2回	20	夏祭り	年1回	1
	童謡		月2回	20	餅つき	年1回	1
	音楽療法		月1回	10	ジャズコンサート	単発	1
	ハーブ		月1回	15	エルダーズバンド	単発	2
	ハーモニカ		月1回	10	喫茶	不定期	5
	カラオケ		月1回	10	合計	95	
通所部門	ドーナツ隊		月1回	6	手話コーラス	各月	6
	三味友の会		2月1回	6	歌	月1回	12
	書道		月1回	11	オカリナ	不定期	1
	音楽療法		月1回	12	ケアセラ	単発	1
	折り紙		不定期	1	夢楽ライブ一座	単発	2
	三味線		各月	6	腹話術	単発	1
	ロコモ体操		月1回	10	手芸	単発	1
	リズム体操		各月	4	ふれあいキッズ	単発	1
	ハーモニカ		各月	6	笑ヨガ	単発	1
	夏祭り		年1回	1	腹話術	単発	1
	盆踊り		年1回	1	折り紙	単発	1
	囲碁		週1回	27	ピアノ	単発	1
	陽なたぼっこ(楽器)		不定期	3	リコーダー	単発	3

	現代版組踊り	不定期	0			
				合計		126

平成 29 年度 短期入所生活介護事業報告

1. 基本方針

- (1) 職員一人ひとりが、やさしさ・思いやりの気持ちを抱いてサービスを提供し、笑顔で安心して過ごして頂けるよう、支援できた。
- (2) 『在宅での生活の継続が目的』であることを再認識し、在宅生活の継続を目的とした総合的なサービスを提供した。

2. 年度目標

- (1) 『陽だまりの丘にまた行きたい。』と思って頂けるよう、利用者の思い・声を聴き、柔軟な対応をした。
- (2) 新規利用者・・・35名(達成率 87.5%)
稼働率・・・98.9%
新規利用者の獲得に関しては目標を達成出来ず。しかし、新規利用の方にも満足して頂けるサービスを提供し、ほとんどの方がリピート利用に繋がった。
稼働率に関しては、定期利用の方の体調不良が多く、キャンセルも多かったが、他事業所へ連絡・営業を行い、目標を達成できた。
空床利用に関しては、稼働率 48.5%。空床の期間が短い時には、積極的に営業活動に取り組みていなかった。次年度は、短期間であっても、すぐに営業活動を行い、1日でも空床をなくすように努める。
- (3) 散歩や、生活の中での機能訓練を行い、ADLの維持・向上に努めた。

3. 事業活動計画

- (1) サービス計画
 - 1) 利用者・ご家族との連携
 - ①担当介護支援専門員が作成した居宅サービス計画書に基づき、個々の状況や希望に沿った短期入所生活介護計画書を作成し、適切なサービスを提供できた。
 - ②利用中や送迎時に、在宅での生活に対する不安など、相談に対応する事で、利用者、ご家族と信頼関係を築けた。
- (2) 短期入所生活の支援
 - 1) 在宅での暮らしに沿ってサービスの提供を行い、自宅に近い環境、または対応で、安心して過ごして頂けた。
 - 2) 食事する環境・使用する食器類を整える事で、食べる意欲を引き出せた。また、利用者の出来ることを活かし、自己摂取を促した。
 - 3) 利用者の ADL に応じた入浴設備を利用することで、安全かつ快適に入浴して頂けた。
 - 4) 個々に応じた適切な排泄方法を見極める事で、利用者のプライバシーに配慮した排泄の支援ができた。
 - 5) 利用者の ADL に応じた送迎車で、ご自宅と施設間を安心かつ安全に送迎した。
- (3) 教養娯楽・趣味の実現
 - 1) 施設内行事、ボランティア活動があった際には、参加を促し、社会交流をして頂けた。
 - 2) ユニットでのレクリエーション活動で、ユニットの入居者や職員と交流する機会を持って

頂き、充実した生活を送って頂けるように支援できた。

- 3) 希望があれば、自宅から編み物や、本など、趣味に必要な物を持参して頂き、利用中に趣味を楽しめる時間を提供した。

(2) 食事・栄養計画

1) 栄養管理の実施

他部門と連携し、利用者の食事摂取状況や、栄養状態の把握に努め、適切な栄養管理を行った。

2) 在宅における栄養相談

栄養相談を行い、利用者の栄養状態に応じて、栄養補助食品等の補食を提案した。

3) 食事の支援

利用者の咀嚼・嚥下状態を確認しながら、他部門と食事形態を検討し、安全かつ、おいしい食事を楽しんで頂けた。

4) 各種調査の実施

管理栄養士が定期的な嗜好調査を行い、利用者の嗜好や要望を把握し、利用者により満足して頂ける食事を提供する事ができた。

(3) 健康管理・医療体制

1) バイタルサインチェック

看護職員による定期的なバイタルサインチェックにより、体調変化の早期発見に繋がった。

2) 日常生活における観察

- ①入浴時などの全身観察
- ②食事・水分摂取量の観察
- ③排尿・排便回数、または状態観察
- ④体重の増減の観察

3) ご家族・主治医・訪問看護との連携

ご家族、主治医、訪問看護と連携を取ることで、適切な看護及び医療的処置を行えた。

4) 病院受診

- ①発熱等の体調異変時は、ご家族に連絡し、必要に応じて病院受診を提案した。
- ②転倒等の事故発生時は、バイタルサインチェック・身体の外傷観察・痛みの有無を確認する。その後、ご家族に連絡し、状況に応じて病院受診して頂いた。

5) 夜間看護体制

夜間、体調不良や事故発生により救急処置が必要となった場合、看護職員にオンコールし、指示を仰ぐことで、24時間連絡体制を確保した。

6) 内服薬・外用薬の管理

自宅で内服薬・外用薬を自己管理されている利用者は、自宅同様に自己管理して頂き、自立支援に努めた。

利用者・ご家族から看護職員に管理の要望があれば、看護職員が管理させて頂き、服薬の支援をした。

7) 衛生管理

感染対策委員会の指示の基、感染症予防対策の実施、環境整備による感染症予防に努めた。

(4) 機能訓練

利用者・ご家族の希望に沿って、機能訓練指導員・生活相談員・介護職員が中心となり、散歩や、口腔リハビリ等を行い、日常生活動作の維持・向上を目指した。

(5) 事故防止

安全対策委員会と連携し、事故報告書・ひやりはっと報告書から事故発生の危険性が高い利用者への対応を早急に検討し、センサーマットの使用や、歩行時の動線確保など、事故発生の防止に努めた。

(6) 苦情・相談処理解決

苦情、相談はサービスの質の向上に繋がると考え、内容を真摯に受け止めた。その後、迅速かつ誠意をもって対応することで、業務改善に取り組んだ。

(7) 個人情報の保護

個人情報保護法に準じ、個人情報の漏洩が発生しないように管理した。利用契約時に個人情報の取り扱いに関して説明し、同意書を頂いた。

平成 29 年度 通所介護事業報告

1. 基本方針

利用者一人ひとりの意見や希望などを取り入れることで利用者の立場に立ったサービスの提供ができた。ただ、すべての意見や希望に応える事が出来ずに、有意義な時間を過ごして頂く事に関しては改善の余地があると考えられる。ご家族のレスパイトに関しては、出来る限り希望に沿ったサービスを提供できた。

2. 年度目標

各居宅支援事業とは、利用者の状況・空き状況の報告を行い、連絡は蜜に図れた。新規利用者は 18 名。年間稼働率は 77.5%となった。

3. 事業活動計画

(1) サービス計画

居宅サービス計画書の基づき、ご本人の希望に沿った通所介護計画書を作成し、適切なサービスが提供できた。

(2) サービス内容

1) 送迎

利用者の身体状況や住居の環境を把握し、安全に送迎をすることができた。安全を第一に考え運転、車両の点検・整備を実施した。また、ご家族とコミュニケーションを図る場所として活用でき信頼関係の構築の場となった。

2) 入浴

利用者の身体状況や希望に合わせ、一般浴・機械浴での入浴の提供ができた。

3) 食事

口腔内・咀嚼能力の状態に合わせて、適した形態の食事を提供できた。嗜好調査を行う事で、提供する温度や内容などの改善につながった。管理栄養士と相談をし、毎月イベント食を実施することができた。

4) レクリエーション

年間計画を立て、季節に合わせた内容のクラフト作りや誕生日会の実施、利用者の状態や希望に応じて、内容や時間などを考慮し楽しんでいただけるレクリエーションの提供ができた。ただ、マンネリしている部分もあり、引き続き内容の検討は必須と考えられる。

5) 口腔ケア

口腔ケアセットを持参していただき、昼食後にお声かけをし口腔ケアを実施していただいた。持参されなかった方へはうがいを促した。

6) 個別機能訓練

利用者の意向や目標から、達成に向けてのプログラムを検討し実施できた。実施することで著しい ADL の低下は見受けられなかった。

7) 服薬管理

希望者には、看護職員から服薬の管理・介助を行った。ダブルチェックをすることで、飲み忘れや飲み違いのないよう対応できた。

(3) 健康管理

1) バイタルサインチェック

バイタルサインチェックをすることで、健康状態の把握、早期の体調の変化の発見に繋げる事が出来た。変化があった際には看護職員と連携しご家族と相談をすることができた。

2) 医療機関との連携

体調に変化があった際には、ケアマネジャーと相談をし、主治医や訪問看護の連携することができた。

(4) 衛生管理

感染予防委員会及び衛生委員会にて検討された内容に関し、職員間で状況を共有できた。整理整頓は心がけるも、必要な物・必要でないものの選別が出来なかったため、次年度には1ヶ月毎に見直す仕組みを検討する。

(5) 事故防止

細かな気づきや変化に関して職員間で情報を共有し、ヒヤリハット報告や事故報告の内容を把握し、改善策を検討し対応することができた。

(6) 苦情処理解決

苦情が5件あったが、迅速に対応し解決に至った。ただ1件に関してはご利用者間のトラブルであり、お一人の方が利用を終了される事になった。

(7) 個人情報保護

職員一人ひとりが意識を持つことで、個人情報の漏洩を防止をすることが出来た

(8) 人材育成

施設内研修・施設外研修に参加し、新しい情報を取り入れることで、一人ひとりのスキルアップに繋がったと考えられる。情報の共有・意識の持ち方に関しては更なる向上が今後も必要と考えられるため、お互いが高め合える環境を整えていきたい。

(9) 営業改善

全体ミーティングを開催することで、業務内容の見直し、利用者の情報共有、職員間の連携を確認することが出来た。

(10) 営業

各居宅支援事業所へ訪問・電話・FAXをし、空き状況やイベントの伝達をした。

(別表1) 年間行事計画

月	日	行事
4月	1日(土)	・お花見
5月	10日(水) 11日(木) 15日(月) 16日(火) 22日(月) 24日(水)	・地域交流会(バラ園見学) ・外出ツアー(買い物)
6月	14日(水)	・家族会
7月	4日(火) 7日(金)	・大野台保育園交流会 ・七夕(七夕飾り)
8月	30日(水) 29日(火) 31日(木)	・夏祭り ・南第二小学校交流会(作品展)

9月	18日(月)	・敬老会 (ジャズコンサート)
10月	11日(水) 21日(土)	・家族会 (音楽療法) ・運動会
11月	14日(火) 21日(火) 28(火)	・外出ツアー (外食)
12月	5日(火) 19日(火) 25日(月)	・外出ツアー (外食) ・クリスマス会
1月	4日(木)	・新年会
2月	3日(土)	・節分
3月	3日(土)	・雛まつり

平成 29 年度 寺小屋 結いまーる

1. 基本方針

利用者の方に参加したい、習いたい教室をご自身で選んでいただく、又、利用者の方が講師となり指導していただく等、利用者の能力を最大限引き出すことで生きがいに繋げ、利用者主導型のサービスの提供をすることができた。そして、社会福祉協議会、地域のボランティアの方等と連携することで地域のニーズを把握し、地域のニーズに合ったサービスの提供を行うことができ、「地域密着型」としての役割を果たすことができた。

2. 目標

- (1) 年間稼働率 81.5% (午前 83.4%、午後 79.6%)。特に午後からの稼働率が低い傾向にあった。稼働率の低かった寒い時期、暑い時期の安定的な稼働率の確保が必要である。
- (2) 事業対象者、要支援者等の多様な生活支援ニーズに対して、活動を通して生きがいや介護予防を提供することができた。
- (3) 多忙な際、担当する職員によって業務に差異がみられる傾向がある。業務の効率化をより一層図る必要がある。

3. 活動計画

- (1) レクリエーション (生涯学習)
参加したことはないが興味のある活動やその方にあった活動を調査し、気軽に参加していただけるように講師の方と連携して活動内容を見直すことができた。
- (2) 入浴
個浴の特性を活かし、プライバシーを守りながら最小限の介助に留めることで安心した入浴サービスを行うことができた。
- (3) 個別機能訓練
機能訓練指導員が主導となり、様々な状態の変化に応じたプログラムを位置づけることで個性により重きを置き、ADL の維持向上を図ることができた。
- (4) 食事
 - 1) 楽しく食事をしていただける為の環境の整備、意見書の活用で管理栄養士との連携を図ることで多くの方に満足していただけることができた。ただし、利用する日によってはメニューの偏りがあることもあり、課題が残った。
- (5) 送迎
 - 1) 車載搭載カメラを装備し、安全な送迎業務を行うよう意識して取り組むことで快適な送迎サービスを得提供することができた。
- (6) 安全管理体制
 - 1) 大きな事故はなかったが、ヒヤリハット報告書の件数が少なく有効活用ができなかった。ヒヤリハット報告書の目的・意味を再度周知し、報告書の作成方法についても簡略化する必要がある。
- (7) 苦情解決

1) 苦情・相談について手順に基づいて早期解決を図ることができた。

日々の意見や要望について、言い易い雰囲気や環境をつくることで苦情に至らないよう迅速かつ丁寧な対応を心がけることができた。

(8) 地域活動

1) コミュニティカフェの利用者の減少が顕著で、近隣住民との親睦・交流の機会が少なかった。内容の見直し、認知度のアップの為の宣伝活動の方法を見直す必要がある。

(9) 防災安全対策

1) 防災マニュアルの作成はできているが、必要に応じて見直す必要がある。避難訓練については半年に1回計画的に行うことができた。

2) 消防設備の定期点検を計画的に行うことができた。

(10) 個人情報の保護について

1) 個人情報保護に関する規定について特に不備等なかったため改めて整備をする必要がなかった。今後必要に応じて見直を行っていく。

2) いつでも閲覧可能なように玄関にファイリングしたものを設置することができた。契約書等へは明記しており、契約の際には説明し署名していただいている。

3) 職員採用時の守秘義務誓約書等の提出を義務付け、退職後についても漏洩防止についての認識を徹底することができた。

4) 報告・連絡体制について問題が見られなかった。必要に応じて整備していく。

5) 個人情報保護について内部研修を実施し職員の意識の向上に繋げることができた。外部研修については、参加することができなかった。

6) 鍵のかかる書庫での管理、アクセス管理の徹底に意識をもって務めることができた。

社会貢献事業 事業報告

平成29年度 相談援助報告内容

	55歳 男性	母(86歳)と2人暮らし
期間	H29.7/11～H29.12/19	
相談内容	<p>面談時には、電気・ガス・水道・携帯・家賃を滞納。他にも134万円借金がある状態。</p> <p>また、H29.7/6より、就労は始めたが、手持ちが2000円しかなく、交通費がない状況。</p> <p>ひとまず、止まってしまいそうな光熱費、携帯代、交通費を支援してほしいとの事。</p>	
支援内容	<p>生活に支障が起きそうな光熱費・携帯代・交通費を支援し、以降、食材の支援を4回行った。携帯代に関しては、もう1度支援し、支援金額もほぼ使い切り、生活保護へ繋ぐとの事で終結となる。</p>	

	63歳 男性	1人暮らし
期間	H29.8/31～H29.12/19	
相談内容	<p>H29.8/31時点で無職。携帯代を2ヶ月分滞納している状態。</p> <p>8/31までに支払わないと携帯が止まる。また、携帯が止まると就職活動が出来なくなり、困ってしまう。</p>	
支援内容	<p>携帯代2ヶ月分を支援する。その後、就労先が決まり、交通費の支援、食材も1度支援する。しばらく音信普通になり、連絡が繋がった時には、生活保護の申請をされるとの事で終結となる。</p>	

	48歳 女性	子と2人暮らし
期間	H29.12/12～継続中	
相談内容	<p>息子が高校へ行くも精神面から学校へ行けない状態になる。通信高への編入を考えているが、本人は自己破産の手続き中且つ職業訓練に通っており、貸付を受けることが出来ず入学金の工面が難しい。</p>	
支援内容	<p>入学金253000円のうち、100000円を支援する。また、4月には再度、授業料が必要となる為、それまでの間の金銭面での生活の相談をする。4月の授業料の支払いが出来、生活が安定するまでの間は相談を受ける体制を整えておき、安定すれば終結の予定。</p>	

2. 研修会

- (1) 大阪狭山市社会貢献事業連絡会 出席7回
- (2) コミュニティソーシャルワーカー養成研修会、コミュニティソーシャルワーカースキルアップ研修会は日程調整が出来ず不参加。